

The Magazine for the Members Elite

セブンスシーズ
JANUARY 2000
No.137

Seven Seas

JAN. 2000 No.137

イスラエル 聖蹟遙かなり

ISRAEL, THE HOLY LAND SO FARAWAY

アルフ

Seven Seas

第十三巻第一号・平成十二年一月七日発行・毎月一回・田舎町・地巻二二五号
昭和六十一年十一月十五日第三種郵便物認可



イスラエル
聖蹟
遙かなり

ISRAEL,
THE HOLY LAND
SO FARAWAY

Seven Seas

Publisher
平本照磨 HIRAMOTO TERUMARO

Editor in Chief
高野育郎 TAKANO IKURO

Executive Manager
佐藤真理子 SATO MARIKO

Art Director
安達尚弘 ADACHI TAKAHIRO

Editorial Directors
酒井 明 SAKAI AKIRA
久富美紀 HISATOMI MIKI

Photo Director
青木健二 AOKI KENJI

Editors
藤本忍平 FUJIMOTO SOHEI
李 由子 LEE YUKO
貞広淳子 SADAHIRO JUNKO
長谷川典子 HASEGAWA NORIKO
三好正展 MIYOSHI MASANOBU
橋本安重 HASHIMOTO YASUE
富澤幸子 TOMIZAWA SACHIKO
富山和弘 TOMIYAMA KAZUHIRO

Editorial Cooperation
アム アソシエイツ AM ASSOCIATES INC.

Design
ズアン ZUAM
奔保彰良 HOMBO AKIRA
中川貞治 NAKAGAWA TEIJI
杉村ひろみ SUGIMURA HIROMI

Proofreading
ウィル WE'LL

Business Planning/Marketing Dept.
志賀洋子 SHIGA YOKO
立花直一 TACHIBANA NAOKAZU
小山孝子 KOYAMA TAKAKO
伊藤美智子 ITO MICHIKO
大参洋平 OHMI YOHEI
中島美華子 NAKAJIMA MIKAKO
沢田 一 SAWADA HAJIME
室 良和 MURO YOSHIKAZU

Marketing Dept.
清田洋子 KIYOTA YOKO
島田友美 SHIMADA TOMOMI

Multimedia Planner
塚本千春 TSUKAMOTO CHIHARU

London Office
野上理亜 NOGAMI LIA

Editorial Adviser (1989)
開高 健 KAIKOH KEN

Print
凸版印刷 TOPPAN PRINTING

Published by
株式会社 アルク
〒168-8811 東京都杉並区永福2-54-12
ALC PRESS INC.
2-54-12, Eifuku-cho, Suginami-ku,
Tokyo 168-8611 Japan
Business Planning/Marketing Dept.
tel. + 81(3)3323-7777 fax. + 81(3)3323-7771
London Office
124 New Bond Street, London W1Y 9AE U.K.
tel. + 44(171)499-4557 fax. + 44(171)499-3738

Editorial Dept.
株式会社 アム アソシエイツ
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-12-1-104
AM ASSOCIATES INC.
3-12-1-104, Sendagaya, Shibuya-ku,
Tokyo 151-0051 Japan
tel. + 81(3)3479-7357 fax. + 81(3)3479-8125

©ALC PRESS INC.
本誌掲載の記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。

Networking for Global Communication
ALC PRESS INC.
2-54-12 EIFUKU SUGINAMI-KU TOKYO 168-8611 JAPAN
TEL.03-3327-1101 FAX.03-3327-1300

編集長日記 EDITOR'S EYE

挿し絵を描いたのは米国ボストン在住の日本人画家、麻生花見氏。



無垢から実直へ。

過日、ロシア・レストラン「ヴォルガ」において薩摩琵琶奏者の友吉鶴心氏の演奏会を催した。二世となる鶴心氏の奏でる琵琶の音のなんと重く厳肅なことよ。つまびかれる弦の音だけで、一瞬にして幽玄の世界に包み込まれてしまうかのようで、静まり返った場内は息音さえも聞こえないほどであった。音楽がファッショョンや心地よさで聴かれたり語られたりするようになった今日この頃、たしかにのどこのいい酒を飲んでいるようで、覚えやすいメロディや、小気味いいリフが繰り出されてくるその瞬間瞬間はとてモ気持ちよく過ごせる。しかし、一定の「演奏時間」が過ぎてしまえば、あとになにも残らない。さて、約二時間にわたる演奏が終わったあと、何かを話せということなので、僭越ながら壇上にて鶴心氏を相手に日頃の忌憚なき思いをお話しさせていただきました。それは鶴心氏の演奏から受け止めた、心の中に深く沈んでいくようなずしりと重い「課題」への返答でもあった。ともあれ音楽が琴線に触れるとはこのようなことを指すのかもしれない、と気づかされた有意義な一夜であった。

某月某日
C H E E S E
さて、薩摩琵琶の演奏会にもお見えになつて、セブンシーズ読者の中原悦夫氏から本のプレゼントが届いた。中原氏は小生がお世話になっている歯科医師で、医院の創立十周年を記念して「えがおのバいくん」(レゾナンス出版刊)という絵本を書かれたのだ。歯科医療にもさまざまな分野があるという、氏の専門は審美歯科。審美と「歯」という言葉の組み合わせがなんだかなじまないのだが、本を読んでも、青虫の主人公ハルくんが青葉を食べながら美しい蝶に成長していくまでを描いたもので、手前勝手な解釈をするならば、「健康な心と体は美しい歯から」ということであろうか。子供時分に水でさえも噛んで飲めと言われたことを覚えているが、ともかく、ものを食べる時はよく噛まなければならないらしい。野球部、ラグビー部をはじめとする体育会系には、「早飯は美德なり」という風潮があるのだが、現在の自分の歯の状態を見てみると、この風潮は決してほめられたものではないことが、身につまされてわかるのである。

某月某日
D R E A M S
最近「もう野球は見ない」と、さまざまところで公言している。しかし、見ないとは言っても、やはり気にはなるのである。やれ、ダイエーの工藤だ、横濱の佐々木に何億だ、例年のことくストリーリーグをにぎわす読売巨人の人物選手漁りの動きには辟易する。値打ちもわからぬのに高級ブランド品を揃えて、ひとりほくそ笑んでいる客番漢のように見えてくる。球団としては優勝を最終目的とするため、チーム力の補強に腐心することは理解できるが、やるべきことが違うのではないだろうか。思い返してみれば、野球との出合いは、夢、希望、憧れ、輝き……と、さまざまな感激と感動をこの身に与えてくれた。人生に必要な多くのことを野球から学んだと言っても過言ではないだろう。そんな野球を、うっちゃってしまふことはやはりできないのだ。たとえ一リーグ制になろうが、たとえワースト記録を更新しようが、たとえ万年最下位を続けようが、小生は永遠に「長島巨人」を応援し続けるぞ。ファンにとっては優勝のふた文字よりも大切なものがあるのだ。④

次号予告 NEXT ISSUE

Seven Seas
2月号

特集 荒ぶる海の 挑戦者たち

2000年アメリカスカップの挑戦権を競う
ルイ・ヴイトン・カップ。
海の挑戦者たちの
チャレンジャーズ・スピリッツにふれる、
ニュージーランドのオークランド行。



http://www.alc.co.jp/
創立30周年